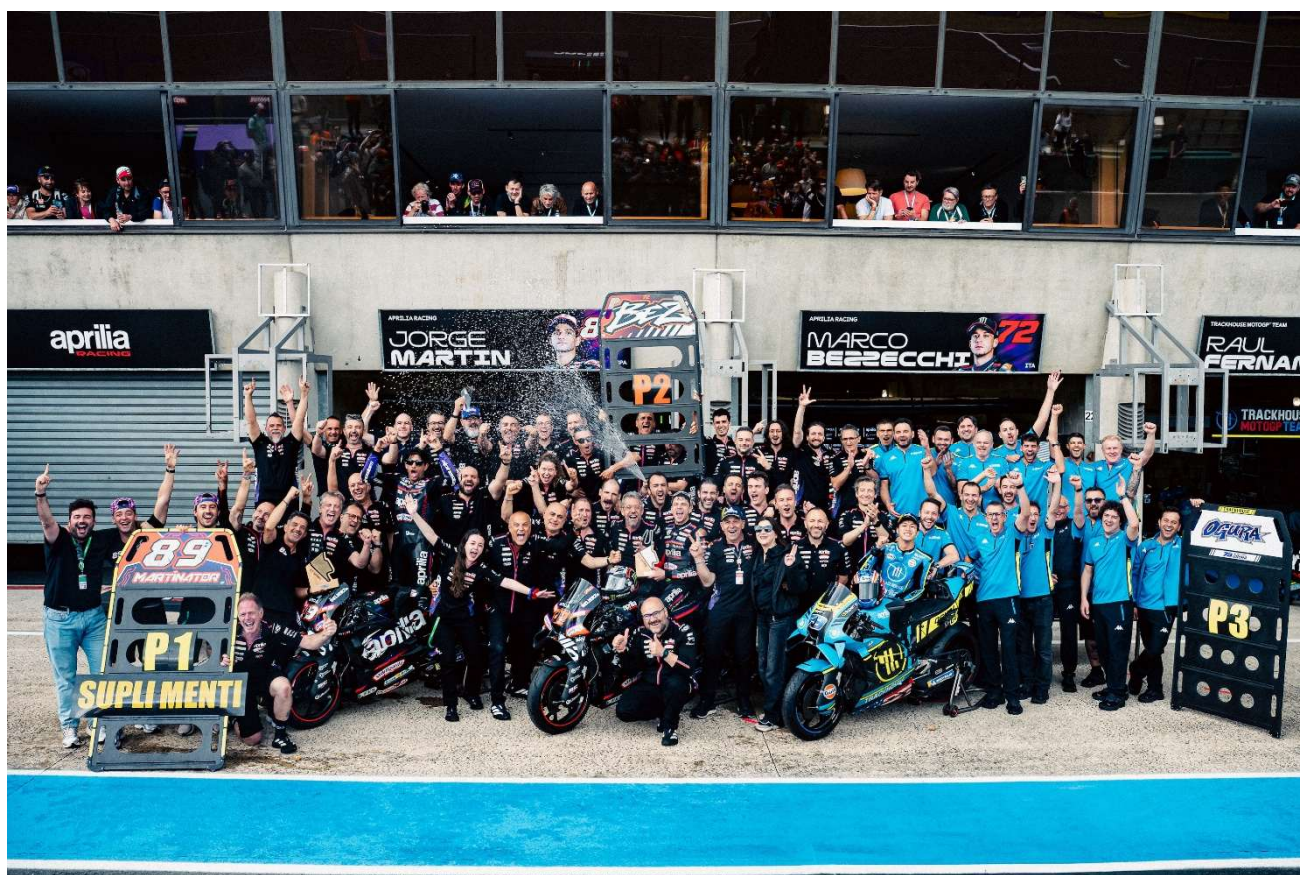


ニュースリリース PGJPR26-008
メディア関係者 各位

2026年5月11日
ピアッジオグループジャパン株式会社

ホルヘ・マルティン選手がRS-GPで初優勝、マルコ・ベッツェッキ選手が2位、小椋藍選手が最高峰クラス初の表彰台で、史上初のアプリリア勢による表彰台独占を達成



ル・マン, 2026年5月10日 – ル・マン・ブガッティ・サーキットでの週末は、アプリリアがMotoGPで初の表彰台独占を達成しアプリリア・レーシングにとって歴史的な結果で幕を閉じました。

7番グリッドからスタートしたホルヘ・マルティン選手は、前回のMotoGP優勝（2024年マンダリカ）から実に588日ぶりにアプリリア・レーシングでの初勝利を挙げ、驚異的なカムバックを果たしました。マルティンはこの週末のスプリントレースと決勝レースのダブルウィンを飾り、2024年のル・マンで達成した結果を再現しました。

マルコ・ベツェッキ選手は堅実かつ賢明なレース運びで2位を獲得し、アプリリアファクトリーチームが1-2フィニッシュを達成しました。ベツェッキは今シーズンの開幕戦から5戦連続の表彰台であり、これは2015年にバレンティーノ・ロッシが記録して以来の偉業となりました。

トラックハウスMotoGPチームのライダーである小椋藍もまた素晴らしいパフォーマンスを見せ、決勝レースを見事3位でフィニッシュし、アプリリア勢による歴史的な表彰台独占を成し遂げました。

これはアプリリア・レーシングにとってMotoGPにおける初の表彰台独占であり、ファクトリーチームとしては最高峰クラスで4度目の2人そろっての表彰台（2023年モンメロ、2026年ゴイアニア、2026年COTA）であり、最高峰クラスでの7戦連続表彰台獲得となりました。

ホルヘ・マルティン選手

「本当に嬉しいです。最初は優勝争いができるとは思っていませんでしたが、決して諦めませんでした。アプリリアは自分に必要なものを提供してくれていて、自信も日毎に高まっています。これからはこの方向でさらに成長していくために努力を続けていくことが重要です。」

マルコ・ベツェッキ選手

「難しいこともあったけれど、全体的には良い週末でした。予選でフロントローを獲得し、スプリントレースと決勝レースの両方で表彰台に上がったので満足しています。集中力を保ち、ミスをしないように心がけました。全力を出し切ったつもりだったが、ホルヘの方が少し上回っていたようです。」

マッシモ・リボラ (aprilia racing CEO)

「アプリリア勢の3台がMotoGPの表彰台を独占したのは初の快挙で、歴史的な一日となりました。ホルヘがこれほど力強い走りを見せてくれたのは特に感動的です。マルコもこれほど競争力があり、成熟した走りを見せてくれたのも素晴らしいことです。そして、オースティンでの出来事の後だけに、藍の表彰台は大きな安堵感を与えてくれました。ノアーレのレーシング部門は本当に素晴らしい仕事をしており、ファビアーノ・ステルラッキーニが率いるこのチームにとって、これは当然の評価だと思います。」



TRACK HOUSE MOTOGP TEAM

小椋 藍選手

「レースは本当に素晴らしかったし、天気にも恵まれました。スタートはあまり良くなかったのですが、最初の2、3コーナーで何人かのライダーを追い抜くことができ、それが一番のポイントだったと思います。その後のレース前半は楽ではありませんでしたが、レース中盤からはバイクの調子が良くなり、多くのライダーをパスすることができました。とても満足しています。アコスタ選手があんなに遅れるとは思っていませんでしたし、レース終盤は良いペースで走ることができました。予想外でしたが、本当に良かったです。」



◇報道関係者お問い合わせ先：

ピアaggioグループジャパン株式会社

〒108-0073 東京都港区芝 2-12-10 タカナミビル1F

○ PR マーケティング： 河野 僚太 (こうのりょうた)

E-Mail piaggio-japan.press@piaggio.co.jp

代表電話 03-3454-8880 FAX 03-3454-8868